

**小松議員** 初めて質問をさせていただきます小松です。不慣れな点もあろうかと思いますが、よろしくお願いします。本日は2点質問をさせていただきます。まず1点目です。今、国や県、各地方自治体では、少子化対策を重要課題として取り組んでおり、その柱として「子育て支援」の充実に力を入れていることは、皆さんご承知のことと思います。牟岐町でも令和2年に「第二期牟岐町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、令和3年4月には子育て応援室「むぎゅっと」を開設。また、出産・子育て応援給付金の支給など、行政として子育て支援に力を入れていることは大変素晴らしい取り組みだと思います。「第二期牟岐町子ども・子育て支援事業計画」を読ませていただきました。作成に携わった方々が町をあげて子育てを支援していこうという強い意思が感じられる内容でした。ただ、乳幼児健診、乳幼児相談、発達相談の実施等に対する取り組みについては書かれていましたが、子どもの医療体制については書かれていませんでした。私は、子どもの医療体制がしっかりしているかどうか、これは、子どもを育てている親にとって一番重要なことだと思います。牟岐町には、小児科がある県立海部病院があります。あれだけの設備をもった立派な病院があります。しかしながら、その診療体制はどうでしょうか。町長はご存知だと思いますが、小児科の診療日は週1回、水曜日だけなのです。当然夜間救急の対応は小児科医はいませんから、専門外の当直医が診ることになるのでしょう。これが現在の海部病院の小児科診療の実態なのです。現在、徳島県には、県立病院が三病院あります。徳島中央病院、三好病院と本町にあります海部病院です。徳島中央病院は徳島市内にありますから別格として、規模の差はありますが、海部病院と比較できる病院としては、県西部の三好市池田町にある三好病院でしょう。三好病院に来る外来患者のエリア、これは三好市と三好郡を想定した場合ですが、合計人口は、今年8月現在で約3万8千人。海部病院の外来患者エリアである海部郡3町の合計人口は、同じく今年8月現在で約1万8千人です。人口比は約2.1倍となっています。単純に比較することはできないかもしれませんが、小児科の診療体制を見ると、三好病院の診療日は月曜から金曜まで、診療時間は朝8時30分から午後3時まで。午後3時以降も診察可能な場合もあり、火曜から木曜は午後6時から翌朝まで小児科医が対応してくれる。また、2、3日前に電話をすれば予防接種も予約できる。かたや海部病院は、何度も言いますが週1回水曜日だけ。この差はどうなのでしょう。確かに診療割合の人口の差とかはあるでしょうが、同じ県立病院としてこれだけの差がある原因は何でしょうか。ちなみに人口約8千人のつるぎ町にある町立半田病院の小児科診療体制は、小児科専門医が常駐しており、県立三好病院とほぼ同じです。これ町立病院ですよ。県立病院は徳島県病院局の管轄であり、所在地の町長と言えども病院の体制に口をはさむこ

とはできないという立場にあることはわかります。しかしながら、県病院局の基本方針の2には、「県立病院は県民がいつでも、どこでも等しく高度な保健医療サービスが受けられる徳島づくりに貢献します。」と明記してあります。この基本方針からすると、現在の海部病院の小児科診療体制はどうなのでしょう。もし海部病院に小児科専門医が常駐し、派遣医師に来てもらえれば、月曜日から金曜日まで診療可能となり、他の病院のように、例えば、火曜日と木曜日の午後は乳幼児健診や発達相談日としたり、予防接種も予約すれば可能となる夜間の救急にも小児科医が対応してくれる場合もある。こうなれば子育て中の親御さんの精神的負担は随分軽くなるのではないのでしょうか。県立海部病院は県南の中核病院として位置づけられているのですから、牟岐町だけでなく、美波町、海陽町とも連携して3町の要望として、県に対して海部病院の小児科診療体制の見直しを申し入れるべきだと私は考えます。新聞にも載っていましたが、今月7日に旧海部病院の建物を海部高校の学生寮として活用できるよう、3町の町長、議長が知事に面会して直接要望しているのですから、海部病院の小児科の診療体制の見直しも要望できるのではないのでしょうか。そこで町長にお伺いします。町長は、現在の海部病院の小児科診療体制は子育て支援を進める上で、これで十分だとお考えですか。それとも県に対して小児科専門医の常駐による、より充実した診療体制にするよう要望していかねばならないとお考えがあるのかお聞かせください。次の質問に移ります。今月1日に海陽町「まぜのおか」で行われた県総合防災訓練を見学させていただきました。大地震の発生やそれに伴う津波による被害を受け、孤立した地域に対する県境をまたいだ救援、救助活動の対応力強化を目的とした訓練でした。大規模災害が発生した場合には、こういう国や県全体の支援がなければ救助活動やその後の復旧・復興は難しいなと感じました。しかし災害が発生した場合、すぐにこういう支援体制ができるとは限りません。支援が届くまでの間、被災した町民の初期救助活動や被災状況の確認など、できることを被災地の町が主体となって行わざるを得ないと思いますし、その場合の指揮命令の拠点となるのが役場庁舎です。今回の訓練で想定した地震による被害だけでなく、近年多発している線状降水帯による想定を超える大雨や毎年1回や2回は直撃する台風などの災害が発生した場合の救助活動や復旧・復興の拠点としての役割を役場庁舎が担わなければならない。しかし我が牟岐町の現庁舎は竣工後半世紀が過ぎており、今、皆さんの後ろにあります壁に雨漏りをそのまま裸でパイプと通していますけど、こういう状況です。耐震問題など継続的な使用に耐えうる建築物とは言い難く、災害時の拠点とするには無理があり、一日も早い新庁舎建設が必要です。町民の方も、このような状況を理解されており、役場新庁舎移転建設計画そのものに反対をしている方はいないと思いま

す。しかしながら、多くの方がこの計画について、もっと町からの説明がほしいと思っているのも事実でしょう。前回6月定例議会の町長行政報告の中で、今年の3月13日に山田地区役員、3月25日に山田地区住民に対する説明会を、3月27日に全町内会長に対する説明会を実施したとのことでしたが、それで町民に対する説明は十分だとお考えでしょうか。山田地区の皆さんに対する説明は建設予定地の方々ですから、建設に関わるいろいろな問題が発生することが予想されますので、最優先に説明を行うのは当然だと考えますが、山田地区以外の方々には町内会長への説明を実施したからそれで終わりですか。先に申し上げましたように、役場新庁舎移転建設に反対している町民の方はいないと思います。皆さん必要だと思っています。ただ、町長はじめ役場幹部職員から移転計画について話を聞きたい、疑問点があれば直接聞きたい。これが町民の皆さんの本音なのだろうと思います。特に牟岐町予算に匹敵するような巨額の建設費がかかるこの計画に対して財政面でどうなるのか、将来的に町民の負担はどうなっていくのか、町民の方々が持っている疑問や不安に対し丁寧に説明をすることは、町行政のトップとしての町長の大事な仕事であり、責任だと思っています。「牟岐に住んでよかったと思えるまちづくり」これを標榜する町長としては、町民の皆さんの生の声を聴き、町長の行政に対する思いを町民のみなさんに伝える良い機会にもなると思いますよ。いろいろと公務に忙しい町長です。すぐに全町内を回って説明会を開催してくださいとは言いません。公務の空いている日を選んで予定を立て、ある程度時間がかかってもいいではないですか。各地区を回り、町民の皆さんに直接説明をする場を設定する必要があると思います。町長のお考えをお聞かせください。以上で私の質問を終わります。

**喜田議長** 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

**枳富町長** 小松議員の安心して子育てができる医療体制づくりの取り組みについて、『徳島県立海部病院の小児科診療体制の見直しと充実について、県に対して要望していく考えがあるのか』のご質問にお答えします。現在の海部病院の小児科診療日は週1回水曜日だけの診療体制で、その診療日に予防接種や乳幼児健診をしています。場合によっては健診を断れることもあるそうです。診療日を増やして、通常の診察も受け入れやすい体制にしてほしいと住民の方の要望もあります。議員の指摘されたとおり非常に脆弱であり早急に改善していく必要があると思われま。また、子どもの体調不良はい

つ急変するかわからず保護者は不安を抱えながら生活しています。せっかく県立海部病院があるのに、行きたいときに受診できず、阿南市・徳島市内の小児科まで行く人もいます。県南で安心して子育てするためには医療の充実はとても大切だと思っています。以前より海部郡町村会や海部郡議長会が徳島県に対して医療体制について要望をしていますので、引き続き、海部郡3町と連携をとっていきたいと思います。次に、「役場新庁舎建設に係る町民への説明会」についてのご質問についてお答えします。役場新庁舎並びに海部消防組合新庁舎の移転事業につきましては、令和5年3月に「牟岐町新庁舎建設基本計画審議会」からの答申を受け基本計画が策定されたことにより、山田地区役員及び山田地区住民並びに全町内会会長に基本計画の概要をご説明させていただいたところです。現在は、用地関係者の同意をいただき用地取得が完了したため、敷地造成設計業務・新庁舎建築設計業務の2業務の発注を進めているところです。業務請負業者が決定し設計を進めていく中で、敷地造成設計及び新庁舎の基本設計により新庁舎の配置などが確定し、排水計画がまとまり、都市計画法上の開発許可の申請が認められた時に、改めて町民の皆様にご説明をさせていただきたいと考えています。「各地区ごとに説明会を開催する考えがあるのか」とのご質問ですが、工事に着手した際には、長期間にわたり何かとご迷惑をおかけすることになる山田地区の方々には、きっちりと事業の概要・工程などを説明する必要があると考えています。全町民の皆様には、地区ごとの説明といった形ではなく、全体の説明会という形で「海の総合文化センター」で実施したいと考えていますので、その際に、ご質問・ご意見をいただければと思います。ご理解のほどよろしくお願いします。以上です。

**喜田議長** 小松議員。

**小松議員** 答弁、ありがとうございます。まず、海部病院の小児科診療体制、町長も改善の必要があるとおっしゃっていただきました。また、これまでも県に対して要望を挙げているというお話でしたが、実を言いますと、私も質問の中でも言いましたが、7日の日に県庁まで行かれて、3町の町長、議長が一緒に行かれているというお話でした。もしかしたら、そのときに海部病院の話も出るのかなと少し期待をしていました。出なかったようですけどね。やはり直接知事に訴えるというのは、かなり私も力があることだと思いますし、こういう機会をこれからも取られたとして、例えば、県の病院局に話を持っていくというのも大事でしょうけど、機会があれば直接知事に、この現在の実情をお話して、改善を求めていくと、そういうふうに町長の力を発揮していただきたいと、

改めてお願いします。それから、役場新庁舎の移転計画についての説明会ですが、今、これから造成の問題とか始まるということでしたが、最終的に海の総合文化センターで全町民に対しての説明会を行うと。これ町長、確かに大きな場所で町民の方に来ていただいて説明をして、そこで質問を受けるのも大事だと思いますけど、やはり全部の地区とは言いませんけど、大まかな地区というのを何箇所か選んで、そこで町長が出向いて、役場の幹部の方も出向いて町民の方に説明をする。これは一つの姿勢としても町長の姿勢としても大事だと思います。ですから、この海の総合文化センターでやるのも私は大事だと思いますけど、できればそういう形で、町長が足を向けて行って説明をするという形を取っていただけるように、今一度考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。以上で質問を終わります。